

起因物、事故の型：その他の用具 - 高温・低温物との接触の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	業種小コード	労働者規模
1	21~22	厨房内にて丼にスープを汲んだところ、異物が入ってしまったので取り除こうと丼を傾けた際、誤ってスープをこぼしてしまい、左足内側の踝付近にかかり火傷した。	20	140201	—
1	11~12	訪問介護サービス提供中の利用者宅の台所で、調理の援助作業中に火にかけたフライパンに誤って接触してしまい、右手第1・第2指に火傷を負った。	61	130201	10~29
1	10~11	1階の仕事場、ガスレンジの上に鍋がかかっている、エプロンの紐に引っ掛かり、太ももから長靴の中に、温つゆが入り火傷した。	58	140201	—
1	21~22	調理場から別室にボールに入ったフカヒレスープ（15~20?位）を移動させていた際、手がすべり、左腕・肘・手にかけて煮たったスープがかかり、やけどを負った。	65	90209	50~99
1	10~11	就業場所の管理室内で、清掃に使用した雑巾を洗うため、電機ポットで沸かしたお湯を流し台に置いた洗面器に入れようとし、利き腕でない左手でポットを持って移動させた際に、持ち上げ方が十分でなかったため、ポットの下部が流し台上面に当たって傾き、お湯が上部から飛び出して両足太もも部にかかり負傷した。	61	150109	300~499
1	10~11	厨房にて、野菜を鍋で茹でた後、沸騰した鍋をコンロから後方のシンクに移動させようとした所、手を滑らせて、熱湯が右足・左肘・両大腿にかかり、火傷を負う。	35	130101	100~299
	10~	当社工場内溶解炉付近にて、注湯準備の為トリベに溶湯を入れた後に蓋を			30

1	11	したところ、すき間から溶湯がこぼれて、左足の安全靴に入り、左足裏を火傷した。	70	11002	～ 49
1	20～ 21	焼肉店で片付け中、バックヤードの台の上にポットを置いた際、台の上に他の下げ物が多くあり、台の端に置いたつもりが、バランスを崩してそのまま落下し、ポットのお湯が足にかかった。	18	140201	～ 49
1	10～ 11	調理場において、鍋でそばつゆを調理しポットに移す作業をしていた。鍋が熱いので、ミトンを二重にして使用していたため左手が滑って外れ、その際、傾いた鍋からこぼれたそばつゆが左足にかかり火傷した。	51	140201	—
1	21～ 22	店舗内ホールにおいて、お客様が退席した後にテーブル上の七輪を炭場まで片づける際、火種コンロに手があたり、右手親指付け根（甲）部分を火傷した。	18	140201	—
2	1～2	店舗内厨房で、寸胴交換中、バーナー中心部に寸胴の外側がはまってしまい、手前に傾きはずみで、勢いよくスープが、左足に掛かってしまった。深夜の為、救急車で、病院に行った。	35	140201	1～ 9
2	8～9	朝食の対応中にコーヒーの出し終えた粉を捨てようとして移動していた際に、誤って鍋にぶつけてしまい、反動で左腕、手首付近にかけてしまい火傷を負ってしまった。	55	140101	～ 29
2	18～19	カラメルソースを作成中に誤って火にかかっている鍋をひっくり返してしまい、ソースが右手にかかって受傷した。	25	140101	300 ～ 499
2	20～21	電磁調理器の上に鉄の鍋を置いた時に、電磁調理器のスイッチに誤って触れていたようで、電源が入ってしまい、鍋が熱くなっていたが、それに気が付かず、調理しようと鍋を掴んでしまい左手指を火傷した。	33	140201	—
2	14～15	当事業場2階工場内仕込室において、砂糖等の使用済み材料の付着した寸胴（直径35cm、高さ33cm）を洗浄する作業中、熱湯の入った寸胴から排水溝へ熱湯を捨てる際に誤って手を滑らせ、左足長靴の中に熱湯が入り、左足の足首から甲にかけて、火傷した。	30	10109	～ 49

2	17~18	フィナンシェラインでレモンケーキ製造の際に天板を反転させる作業時に軍手とニトリル手袋をはめて作業していたが、手袋に熱が蓄積して両手の掌を火傷した。	54	170101	100 ~ 299
2	14~15	職場の自分の机で仕事をしていた時、机の上にあったスプレー缶が下向きに落ち、駅が出て、ストーブの火から引火し、ズボンに火がついた。ズボンには作業時についた脂が染みついていた為、燃えだした。自分で火を消そうとしたが消えず、横で作業していた者が気づき、消火した。燃えて溶けたズボンが足に引っ付き両足を火傷した。	46	11305	1~ 9
2	14~15	店舗フードコート調理場において湯を沸かして隣の調理台に移し替える時に手が滑り右腹部から右足に湯がかかり火傷し、当日診察を受けた。	52	80209	100 ~ 299
3	20~21	店舗キッチンの茹で麺機付近において、向かいの寿司場でオーダー作業を行っていたところ、茹で麺機のお湯が少なくなっていたため激しく沸騰しており、茹で麺機からお湯が跳ねて足に落ち受傷した。	17	140201	30 ~ 49
3	16~17	厨房で夕食のすまし汁を鍋からポットに移しかえているときに、隣の人にぶつかってすまし汁が左手の指にかかり、左手指5本を火傷した。	64	10109	30 ~ 49
3	18~19	店舗の厨房でラーメンのスープをあたためて大きな寸胴に移すときに足を滑らせ、右肩から手首まで熱いスープがかかった。	68	140201	10 ~ 29
3	6~7	フードコート内の厨房でラーメンスープを調理している際、時間に間に合わないので火力の強いコンロへ鍋を移し戻そうとした時、ラーメンスープが手にかかり、そのままコンロに乗せようとしたが鍋ごとひっくり返し、腕と足に火傷を負った。	50	140201	50 ~ 99
3	12~13	駐車場で昼休憩の為、同乗した車の助手席でカップ麺にポットからお湯を注いだあと、ダッシュボードに乗せる際、膝に挟んでいたフタの開いた状態のポットが前に倒れ、左足の安全長靴内に熱湯がこぼれ、左足足背にやけどを負う。	64	170201	50 ~ 99

3	12~13	店舗厨房内においてラーメンの調理作業中、作業台に丼を並べてトッピング作業を行っていたところ、作業台を挟んだ目の前でスタッフが右手に柄杓を持ち、丼にスープを注いでいた。作業中の別スタッフの後ろの通路を被災スタッフが通ろうとしたところ、誤って別スタッフが柄杓を持つ右の肘に身体が接触し、そのはずみで柄杓に入っていた高温のスープが跳ね、右手・右腕にかかり熱傷した。	44	140201	30 ~ 49
3	23~24	栄養管理室の調理場内で、粥椀に入れたお粥を患者さんのお膳に乗せようと運んでいる際に、手で3個積み重なるように持っていた粥椀のバランスをくずし、お粥が左前腕にかかり受傷した。	20	130101	500 ~ 999
4	11~12	工場内作用場で調理釜から調理容器を取り出し移動させる作業を2人で行っていた際、相手とのタイミングが合わず相手の持っていた側が上がってしまい、調理容器が傾き、熱くなっていた調理液が流れ出てしまった。左手で持ち、前に移動して右足を前に左足が後ろに残った状態の時、合羽を着用しめくれ防止もしていたが、調味液が合羽を伝い後ろ端から長靴の中に流入して左足首内側を火傷してしまった。釜から調味容器を出して移動する際は時間をおいて冷やし、又、サロペット合羽を長靴の上から着用し長靴への流入を防ぐ対策をした。	58	10102	10 ~ 29
4	16~17	食肉加工工場内にて、ウレタン製の胸上部から足首までの長さのエプロンの汚れを着用したまま落とそうとし、バケツに熱湯を汲んでエプロンにかけたところ、エプロンの裾が膝あたりまで捲れ上がっており、履いていた長靴の中に熱湯が入り、右足の足首から甲にかけて火傷した。	62	10109	30 ~ 49
4	17~18	工場建屋の入口で、接着剤塗布機の洗浄用熱湯を焼却炉で補給し接着剤塗布機に運搬する時、建屋入口段差につまずいた。通常片手で熱湯入りのバケツを持ち運搬するところ、両手で持ち早く作業を終えようとし、つまずいた時に体勢を整えられずに転倒し、バケツに入っていた熱湯が足にかかり火傷した。	46	10501	50 ~ 99
4	14~	店内の更衣室の入口にて、熱湯を持ったまま入口の段差につまずき、右足	54	140201	30 ~

	15	甲と指にかかって火傷した。			49
4	9～ 10	ワインの濾過室で、濾過作業をしている時、近くにあったお湯が流れているホースが破裂して噴き出たお湯が陰部、両太ももに掛かった。原因はホースの老朽化による破裂である。	37	10105	～ 99
4	19～ 20	店舗客席において料理を提供しようとしたところ床が濡れていたため滑りやすくなっており、バランスを崩しとっさに鉄板に右手をついてしまい受傷した。	17	140201	～ 49
4	17～ 18	厨房内で食品を煮沸消毒している時に蒸気が手にかかってやけどをした。	18	140201	～ 29
4	15～ 16	厨房で鍋で温めた小鉢用の煮汁をひっくり返してしまい、左足甲から足首にかけてと、右足の膝下外側の部分に火傷を負った。	42	140201	～ 29
4	9～ 10	患者の配茶準備の為、3F病棟の食堂の流し台でポットから配茶用のキーパーにお湯を入れて、流し台の右側に置いた時にぐらついて、両手で持った時に左側に傾いて、左手にお湯がかかり火傷をした。立っていたキーパーの脚が、右側台に置いた時に一つ折れ曲がっていたため左側に傾いた。	52	130101	～ 299
5	12～ 13	ポットにお茶を入れ所定の場所に運ぶ際、底が抜けて熱湯がかかった。	62	80209	1～ 9
5	8～9	厨房にて味噌汁作成時、寸胴の中のお湯に不純物を発見した為除去するも取りきれず、排水溝へお湯を捨てようとした際に右手が滑り、寸胴の中のお湯が右足首～甲にかかり熱傷を負う。	25	140201	～ 29
5	20～ 21	店内厨房にて調理をしている時、フライパンの油がはね左前腕を火傷した。	46	140209	～ 29
		ぶっかけ出汁を沸かしていた横で保管していたザル容器が倒れ、出汁の鍋			10

5	15～ 16	が落下し、沸かしていた出汁が天ぷらをしていた本人の足にかかり、左足の足首辺りを火傷した。	20	140201	～ 29
5	14～ 15	厨房にてお湯を沸騰させた鍋を移動中、シンクに鍋を当ててしまい、反動でお湯が飛び左上腕部左側腹部を熱傷した。	21	140201	50 ～ 99
5	12～ 13	床掃除をされていて、回転釜のお湯を両手鍋に入れ床に置こうとして、お湯が右足にかかり火傷した。	47	80209	30 ～ 49
5	15～ 16	利用者様宅にて味噌汁を調理中、布巾を探す為に中腰になってまな板を上げたところ、片手鍋の柄に当たり、鍋がひっくり返って味噌汁が右頬・右肩・腕にかかり、火傷をした。	63	130201	30 ～ 49
6	17～ 18	野菜加工場で、冷凍わさびの解凍中に、約50度のお湯に防熱用のゴム手袋をつけて手を入れてもみほぐす作業をしていた。瞬間的にはゴム手袋もつけており、熱さは感じないが、継続的に作業することで、水疱・水疱の破れ、爪先の変色が見られた。	67	170101	50 ～ 99
6	17～ 18	当社工場内で袋詰め冷凍野菜の解凍作業中に、約60℃設定のお湯に防熱用のゴム手袋を付け手を入れてもみほぐす作業を行っていたが、継続的に作業することで、指に水疱が出来、水疱が破れてしまった。爪さきの変色も見られた。	67	10103	100 ～ 299
6	9～ 10	小学校給食室内にて、給食調理作業中、冷凍のホッケの袋を解凍するため、ゴム手袋をしてホッケを沸騰しているお湯の中に入れていた最中に、釜の中で袋が横に倒れたので縦に直そうとした時に、左手袋着用口から中にお湯が入ってきてしまい、左腕ひじ下から小指まで火傷した。	38	10109	30 ～ 49
6	19～ 20	厨房でフライパンに油を入れて蒸している時に、フライパンを持ち上げた際、油をこぼしてしまい、右手人差し指にかかり火傷した。	20	140201	10 ～ 29
		業務の一環として当番で社員食堂の準備をしていた際、ミソ汁が入った密			

6	11～ 12	封容器のふたを閉めたまま加熱してしまい、沸騰していることに気がつき、ふたを開けようとして煮えたぎったミソ汁があふれ出し、両足にかかってしまった。	37	80109	300 ～ 499
6	19～ 20	厨房において、ガステーブルでお湯を沸かしポットに移す作業を行っていたところ、誤ってお湯をこぼしてしまい、それが左手指部にかかり負傷した。	22	140201	10 ～ 29
6	20～ 21	閉店準備の片付けをしていた際に、他スタッフがシンクの上のポットのお湯を捨てようとして、蓋を開けたまま持ち上げた時に手がすべり、そばに座っていたスタッフ（火傷をした本人）にお湯がかかってしまった。お湯は、お客様のお茶用に作ってあるもので、保温の状態であった。	22	140309	1～ 9
6	15～ 16	清掃員控え室で、道具等の片付けを行っている時、熱湯の入ったポットをもう1名の清掃員と共同で捨てようとしたところ手を滑らせ、中に入っていた熱湯が足（主に太股）にかかってしまい、火傷を負ってしまった。	73	150101	500 ～ 999
6	15～ 16	ポテトを揚げる機械の前で、機械を清掃する棒を引っ掛けて落としてしまった。棒が熱くなっており、拾った際に火傷をした。	18	140201	30 ～ 49
6	7～8	ホテル調理場で、寸胴に入った汁物を冷ますために水をはったシンクに入れようと2人で持ち上げた時、バランスが崩れ、熱い汁が右手の甲から腕にかかり、皮がむけた。	18	140101	100 ～ 299
6	11～ 12	蒸気釜で麺を茹でる作業をしていたところ、釜からザルを取り出す際に、ザルから落下した熱湯が左足にかかった。保護具としてエプロンと足カバーを着けていたが、エプロンはめくれ、足カバーはずれていた。	60	10109	300 ～ 499
6	7～8	朝バイトをしている時、ポットのお湯の取り替えをしようとしてポットを逆さにした時、ポットの下を支えていた右手にお湯がかかって、火傷をしてしまった。	20	80209	10 ～ 29
6	10～	店内ステーションにて、デカンタからコーヒーをカップに移す際、デカンタの蓋が閉まっていないことに気付かず注いだ為、蓋が取れてコーヒーが	34	140201	10 ～

	11	左手甲にかかり受傷した。			29
7	20~21	デイリーチェックの写真を撮影中、油受けにぶつかり、油がこぼれて足にかかり火傷した。	23	140201	10 ~ 29
7	11~12	店舗キッチン内で、フライヤー清掃を高温のまま行い、バケツ（排水を溜めるための容器）に水を流さず、油の入った寸胴に水を流したため、寸胴を持ち上げて排油缶に入れようとしたときに、油と水が反応し、爆発した。両腕、顔面付近を火傷、救急車で搬送された。	22	140201	30 ~ 49
7	3~4	集配業務のため、信号のある交差点を自動二輪車で直進中、対向車線で右折待機していた相手車両が右方を確認しないまま右折したため、当方自動二輪車の右側面に接触し、右足を負傷した。	64	10104	500 ~ 999
7	6~7	厨房で朝食の準備中、茹でた野菜を冷やすためザルにあけようと鍋を持ち上げ、後方のシンクに移動したところ、急いでいたため鍋の底をシンクのフチにぶつけてしまい、その反動でこぼれた熱湯が右手にかかってしまった。	67	130201	30 ~ 49
7	20~21	厨房の肉鍋前で牛丼の肉を盛り付けしていたところ、注いですぐの味噌汁を持った他の従業員がぶつかり、左肩に味噌汁をかぶり火傷した。	20	140201	10 ~ 29
7	17~18	当該事業所において、床にこぼれた油をお湯で流すためにひしゃくを使ってカマから食缶にお湯を移していた時に、誤って長靴の中にこぼしてしまい右足甲を火傷してしまった。	60	80209	10 ~ 29
7	17~18	惣菜作業場でとんかつを揚げていた時、側にあった番重が崩れそうになったため咄嗟に左手で押さえようとしたところ、その反動で右手がフライヤーに入ってしまった。当日は発生時間も遅く、市販の薬を自ら塗り、冷やした。	53	80209	100 ~ 299
7	23~24	勤務先である居酒屋で締め作業の一つとして、フライヤーの清掃を行って	21	140201	10 ~

		いた。その際、右手の力が抜けてしまいバランスを崩し、油を浴びた。			29
7	11~12	パン工房で菓子パンを焼いている時、冷めている天板だと思い、生地を載せ焼こうと両手（素手）で持ち上げたが、熱い天板だったため、両手掌の親指、人差し指の根本付近を火傷してしまった。	56	130201	~ 99
7	15~16	第二工場厨房にて熱湯を排水溝に流すため、熱湯を沸かした釜からプラスチック製バケツ（70?程度入るもの）に移した。プラスチック製バケツはコロがついたキャスターの上に乗っていたのだが、バケツを動かそうとした際、床のグリーチングにコロが引っかかり、その反動でバケツが倒れそうになった。バケツは手で押さえたのだが、熱湯がはね、はねた熱湯が両足の長靴の中に入り、両足の甲・指に火傷を負った。	38	10109	50 ~ 99
7	17~18	キッチン内にて高温のラーメンスープを冷まそうと、スープの入った片手鍋を電子調理器に置いておいた。その調理器の前を本人が通った時、鍋の取っ手と左腕が当たり鍋がひっくり返り、高温のスープが本人の足首、右膝、右太腿部にかかり負傷したものである。	31	140201	50 ~ 99
7	10~11	ブリュレ（表面をキャラメル状に焼くプリン）をバーナーで焼き、所定の場所にバーナーを戻したところ、近くにあったプラスチック製の洗濯干しが僅かのこったバーナーの火で溶けたため、あわてて右手で持ち上げたところ、溶けたプラスチックが右手首に落ち火傷をしてしまった。	34	80209	10 ~ 29
7	19~20	厨房に出ていた鍋を洗い場に移動させる際、鍋の取手を持ったところ、片方だけ熱くなっていたので、取っ手を持った左手（人差し指・中指・薬指）を火傷した。	63	140101	30 ~ 49
7	19~ 20	ホール接客業務中、出来あがったラーメンを運ぼうとした際、2個同時に持とうとした所、バランスを崩し、ラーメンの汁がこぼれて腹部にかかった。すぐに冷やしたが皮ふは赤くなり水ぶくれができ、破けてしまった。	68	140201	1~ 9
7	22~ 23	当事業場の厨房内で、フライヤーの締め作業のため、高温の油を抜いていたとき、その油が入った容器を動かそうとした際に手が滑り、油が手と顔にはねた。	20	140201	10 ~ 29

7	13~ 14	売店の閉店準備中、ポットの残り湯を店内の手洗い場に捨てようと、ポットを持ち上げ蓋を開けた。その際、蓋はポット本体に付けたままであったが、半分程度湯を捨てたところで湯気で手が滑り、バランスを崩したと同時に蓋が本体から外れたため、一気に湯がこぼれ、両足にかかってしまった。	63	80209	10 ~ 29
7	10~ 11	宅老所にて調理中、鍋を持っているときに転んで、煮汁が足にかかり、右足の甲を火傷した。	48	130201	1~ 9
9	16~ 17	店内キッチンにて、フライヤー内のカス取り作業を行っていた際、フライヤー上部の部品が落ちてきたため、その部品を右手で抑えようとした際に、高温の油が入っているフライヤー内に右手が入ってしまい、右手指から前腕にかけて火傷を負った。	27	140201	30 ~ 49
9	5~6	朝の作業中、利用者用のお茶を沸かしていて、それを移動させようと持ち上げた際に誤って足にお湯をこぼしてしまった。	61	10109	1~ 9
9	6~7	ガスコンロから高さ2.5cm差がある作業台に9分目まで熱い汁物が入った鍋を移すとき、鍋が作業台にひっかかり、中身が右腕にかかり負傷した。	67	130201	100 ~ 299
9	9~ 10	セールスエリア内において、コーヒーマシンの入れ物を左手で取った所、横にあったデカンタが落ちそうなので右手で押し込んだ際、左手も前に行ってしまう、その左手に熱湯がかかり、火傷をした。	18	80209	10 ~ 29
9	18~ 19	店舗キッチン内で、スープの入っている寸胴（高さ30cm、スープ12?入）を移動させている時に、床に置いてあった炭の箱につまずき、波打ったスープが右首から右腕全体に飛びあびてしまう火傷を負う。	49	140201	30 ~ 49
9	10~ 11	店舗内調理場にてラーメンのスープを濾す為に鍋をかたむけ持っていたところ、手元が滑り鍋の中のスープがこぼれ、左足太もも裏とふくらはぎから指先まで、右足ふくらはぎにかかり熱傷した。	30	140201	10 ~ 29
9	13~ 14	店内キッチンにて調理していた際、電磁調理器の電源が入っているのを知らず、上にあったボールに触れてしまい、左手拇指・示指・中指付近に火	22	140201	30 ~

		傷を負った。			49
9	23～ 24	バスバーAssy目止め作業中に、接着剤が通常より出が悪いと感じた為、接着剤が入っているアルミ製カートリッジホルダーの予備を予熱炉（120℃）にて温め、約15分後交換しようとして予熱炉からカートリッジホルダーを取り出した際、カートリッジホルダーと腕が接触したものである。	38	11403	30 ～ 49
9	23～ 24	電子・電装機器製造部電装機器製造課にて、DC/DCコンバータの製造過程の部品を接着させる作業中、SX720という接着剤を出しやすくするために接着剤の筒を120℃の硬化炉で15分温めた後、右手で取り出す際にカートリッジホルダーと、高温になった接着剤が同腕に接触し熱傷を負った。	38	170101	300 ～ 499
9	13～ 14	当社工場で作業中、使用後の籠を洗う準備をしていた（と思われる）、その際に、洗うためのお湯（60度に設定）をバルブからバケツに汲み、それを桶に移す際、誤って右長靴の中にお湯が入り負傷したものである。尚、本人は知的障害者で意思の疎通が難しい状況にあり、事故発生当時一人で作業をしていたため、作業の目的は不確かなままである。	52	10101	10 ～ 29
10	13～ 14	工場内、洗浄機中央部にてオリコンを裏返しにする作業中、高温水漏れ状態のオリコンを、ゴム手袋を装着せずに作業した為、左右の指が熱傷となった。	52	170209	30 ～ 49
10	15～ 16	事業場調理場で、夕飯調理準備中、コンロの上の鍋を火が付いていないことを確認の上、把手をつかみ、移動させようとしたところ、把手部分がはずれかかり、とっさに右手で鍋底を支えたが、鍋の底が熱くなっており、右手中指、人差指に火傷を負う。	31	130201	10 ～ 29
10	0～1	当社居酒屋店舗内厨房で、調理のため揚げ物のフライヤーに油を補充していた時、誤って手が滑り、油が勢いよく注がれたはずみで中の高温の油が跳ね、身体にかかり負傷した。	24	140201	30 ～ 49
10	12～ 13	厨房内にて、うどんを圧力釜で茹でていた時、いつもと違う変な音が圧力釜からしたため、気になり蓋を開けてしまった。その際、圧力釜の圧が抜けていなかったため、湯が噴きだして火傷してしまった。	50	140201	30 ～ 49

10	4～5	お客様宅にて訪問介護中、台所の床にこぼれているものを踏んでしまい、確認のためにしゃがんで立ち上がった際にガスコンロにかけてあった沸騰したお湯が入ったヤカンに手が当たり、ヤカンを落とし、熱湯で両足の甲を火傷した。さらに慌ててヤカンを拾おうとして、右手でヤカンに触れてしまい右手手首から手のひらにかけて火傷した。	54	130201	10 ～ 29
11	10～ 11	厨房で、揚げてから網で油をきっておいたフライ魚をホテルパン（料理を盛って提供する四角い容器）に盛り付けようと思い、IHヒーター上に積んであったホテルパンから1枚を抜き出した。ところが、電源が切れていなかったのか、ホテルパンが加熱されていて、触った左手の人差し指・中指・薬指・小指を火傷した。	50	80209	10 ～ 29
11	9～ 10	洗い場で食器洗浄作業中、食器洗浄機への食器投入前に、洗浄機の前場に番重を置き、温度設定（47度）の湯を流しながら番重に入れる作業をいつも通りにしていた。右手にひりひりとした痛みを感じた為、受診した。	55	80209	30 ～ 49
11	2～3	加熱室のニーダーからお湯をバケツで汲もうとした時、手が滑り、バケツが落下した。その際、バケツのお湯が跳ね上がり、顔に掛かり火傷をした。	32	10109	500 ～ 999
11	10～ 11	工場内6Bシール機移動式水槽にて、とうふパック詰め作業中に水槽の底板が移動中に引っ掛かり、通常電源を切りエア圧をゼロにして対処するところ電源を切らずに手で板を触って動かそうとした為、板が急に動き、右手中指指先を切ってしまった。	48	10109	50 ～ 99
11	11～ 12	ジェットオーブンから料理をクックアウトする際に、誤ってIH上で加熱されたやっこ（鍋つかみ）を手で握ってしまい、右手のひらを火傷してしまった。IH上に加熱する危険性のあるものは置かない、使用したものは元の位置に戻す、を徹底するように指導していく。	41	140201	10 ～ 29
	16～	被災者は、お客様に提供するラーメンの調理業務中、被災者の背後で寸胴（直径約40cm、高さ約38cm）でラーメンスープを沸かしていた。その寸胴はコンロの中心からずれた不安定な位置に置かれており、被災者及び他			10

11	17	のスタッフが触れるなどしていないにも関わらず突然バランスが崩れて被災者の方に倒れた。寸胴には約20リットル分の沸騰したスープが入っており、そのスープが両足のふくらはぎ及び右足の甲にかかり負傷した。	19	140201	～ 29
11	17～ 18	館内9階にあるお食事処のパントリーにて、沸騰した味噌汁を入れた鍋（やかん）の蓋が左手に滑り落ちてきたため火傷を負った。	25	140101	～ 99
11	11～ 12	店舗厨房の作業台の上で小さい寸胴鍋に8分目位まで入れた魚介スープを卓上電熱器で温めていた。後方の冷蔵庫から卵を出した際に沸騰状態（沸騰し過ぎて）となった鍋が突然転倒して、高温のスープがかかり、腰の後側～太股の後側～足首にかけ火傷を負った。	30	140201	～ 29
11	11～ 12	会社の食堂で昼食の準備をしている時に、みそ汁の容器（密閉されていた）が火にかかっているため蓋を開けようとしたら、圧力爆発して沸騰したみそ汁が身にかかる。体は服で大丈夫であったが、右手と両足膝にかかり、特に膝はストッキングが癒着して、皮が剥がれた。	40	10602	～ 49
11	12～ 13	店内にて、レジにてフードのヒーティング作業中、オープンシートを交換中、シートに付着していたチーズが左手の掌につき受傷した。当日は勤務終了後、病院へ行った。	22	80209	～ 49
11	16～ 17	厨房にて鍋をコンロで温めていた時、脱水症状と、高血圧の薬を服用し、低血圧になっていた為、意識が朦朧としてきて体を支えようと、思わず鍋の取っ手を素手で握った。その結果、両手のひら、指を火傷した。	69	10109	～ 29
11	17～ 18	派遣先の9階にあるお食事処のパントリーにて、沸騰した味噌汁を入れた鍋（やかん）の蓋が左手に滑り落ちてきたため火傷を負った。	25	170101	～ 499
12	10～11	厨房内にて、お客様より注文のあった茶碗蒸しを作成後、熱くなっている蒸し器の取っ手を掴んでしまった。取っ手を掴んだ際に、右手の親指、人差し指、薬指、小指を火傷し、水ぶくれになった為、病院にて治療を受けた。	40	140201	～ 29

12	14~15	キッチン内の通路を移動中、床においてあった油槽洗浄用の熱い油の入った容器につまずき、その際に油が左足足首から下部分にかかり火傷した。	18	140201	10 ~ 29
12	10~11	販売するチキン調理の為、バックカウンター内にある電子レンジにシリコンスチーマーに入れた4本のチキンを入れ、それを3分50秒加熱して取り出した際に、スチーマー本体が歪んで蓋が開き、蒸気が持っていた手にかかり、「熱い」と思った瞬間に持っていた右手を離してしまい、中に入っていた水分と油がこぼれて右太ももとひざに掛かり被災した。	21	80209	10 ~ 29
12	12~13	店舗バックにて、白だし作成のためIH調理台でお湯を沸かそうと大鍋の蓋を取った際、その蓋が大鍋の横に置いてあった5000ccのメジャーカップに当たり、中のかげだしが右足甲に掛かり、火傷を負った。	50	140201	10 ~ 29
12	17~18	惣菜バックヤード内のフライヤー前において、清掃と片付け作業中、グレーチングの上を歩いたとき、足を滑らせて転倒しそうになった際、誤ってフライヤーの中に両手を滑らせ肘付近まで入り、両手・両腕に火傷を負った。	60	80209	50 ~ 99
12	21~22	展望レストラン厨房にて、シンクで洗い物作業中、横で別の係員が100?寸胴の中のお湯を側溝へ流そうと寸胴を勢いよく持ち上げた。中のお湯が勢いよく飛び出し、そのお湯が左足外側にかかり、火傷を負った。	22	140201	300 ~ 499
12	13~14	利用者宅で圧力鍋を使って筑前煮を作っていて、出来上がり、蒸気を抜いて蓋を開けようとしたときに爆発し、両内腿を火傷した。	46	130201	10 ~ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_08.html